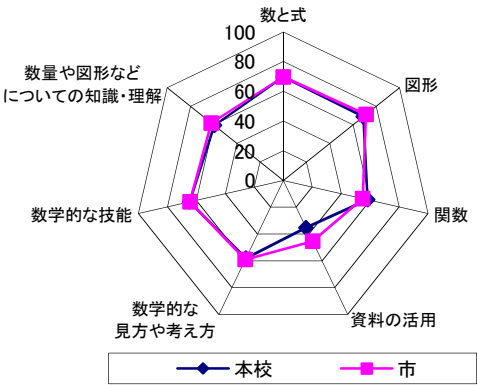


宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	69.6	69.7
	図形	68.9	71.2
	関数	58.2	54.7
	資料の活用	35.3	45.4
観点別	数学的な見方や考え方	58.1	59.1
	数学的な技能	64.6	64.4
	数量や図形などについての知識・理解	59.4	62.1



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	数と式の領域全体としての正答率は、市の平均正答率とほぼ同じである。文字式の計算や連立方程式を解く問題の正答率は市の平均正答率とほぼ同じであるが、2元一次方程式を成り立たせるx、yの値の組を求める問題の正答率(44.7%)が市の平均正答率(57.6%)を10%近く下回っている。文章題から、正しい連立方程式をつくることのできる問題の正答率(89.4%)は、市の平均正答率	多項式のいろいろな計算問題の正答率が51.8%と市の平均正答率とほぼ同じであるが、さらに正答率を上げ、計算する力をさらに身に付けさせる必要がある。また、1元一次方程式や2元一次方程式を成り立たせる文字の値(解)について再確認する必要がある。
図形	図形の領域全体としての正答率は、市の平均正答率を少し下回っている。多角形の外角の和の性質を用いて角の大きさを求める問題や円錐の体積や半球の体積に関する問題の正答率が、市の正答率を10%前後下回っている。	多角形の外角の和の性質を用いて角の大きさを求める問題演習を行う機会をつくる必要がある。また、円周や円の面積、円錐や球の体積などについても再確認する機会をつくる必要がある。
関数	関数の領域全体としての正答率は、市の平均正答率を少し上回っているが、正答率が58.2%と低い。変化の割合を求める問題の正答率(77.6%)や1次関数のグラフをかく問題の正答率(84.7%)、2直線の交点を求める問題の正答率(63.5%)は、いずれも市の平均正答率を上回った。	変化の割合や傾き・切片に関する問題、グラフをかく問題の正答率は80%前後の正答率があり高いが、傾きとグラフが通る座標からその式を求める問題の正答率(54.1%)が低く、
資料の活用	資料の活用の領域全体としての正答率は、市の平均正答率を10%下回っている。特に、度数分布表から階級の相対度数を求める問題や近似値の真の値の範囲を選択する問題の正答率(37.9%、25.9)は、市の平均正答率を10%以上下回ると共に、それぞれの正答率がとても低い。	度数分布表・階級・相対度数など、資料の整理と活用の基礎を再確認する必要がある。第3学年の資料の活用の領域を学習する場面において、1年生で学んだ事項についても再確認をしながら学習する必要がある。